

会議録

会議の名称	男女平等参画推進委員会 平成23年度 第10回
開催日時	平成23年7月13日（水曜日） 午後6時30分から8時30分まで
開催場所	田無庁舎1階 第2会議室
出席者	出席：名古屋委員、藤原委員、渡辺委員、大野委員、高橋委員、蓮見委員、石田委員、今井委員、小野委員、富永委員 （欠席：白松委員） 事務局：浜名課長、藤巻係長
議題	1 第9回男女平等参画推進委員会会議録の承認について 2 男女平等推進センター パリテ事業報告について 3 男女平等参画推進計画各課実績評価基準の見直しについて 4 「平成22年度男女平等参画推進計画各課実績評価」について 5 その他
会議資料の名称	1 第9回男女平等参画推進委員会会議録の承認について 2 男女平等推進センター パリテ事業報告 3 評価基準の見直しについて 4 平成22年度男女平等参画推進計画各課実績評価
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>（開会）</p> <p>○委員長： 定刻になったので、第10回男女平等参画推進委員会を開催する。</p> <p>○委員長： 本日欠席者はいるか。</p> <p>○事務局： 委員より緊急事項があり出席できるか分からないとのこと。委員は若干遅れると連絡があった。</p> <p>○事務局： 7月1日付で婦人相談担当の職員が異動になり、後任職員の配属が無く現在2名で事務を行っている。水曜日は遅番の勤務日に当たっているため、当分の間委員会は2名で対応する。</p> <p>1 第9回男女平等参画推進委員会会議録の承認について</p>	

○委員長：
第9回男女平等参画推進委員会会議録について、訂正等何かあるか。

○委員長：
なければ、第9回男女平等参画推進委員会会議録を承認とする。

○各委員：
異議なし。

2 男女平等推進センター パリテ事業報告について

○委員長：
男女平等推進センター パリテ事業報告について、事務局からお願いします。

○事務局：
先日開催された、「災害と女性」講座の実施記録とアンケートの集計を提示。次に、夏休み企画「パパの出番です」として、8月7日（日曜日）、21日（日曜日）の2回に亘って開催する予定になっている。どちらもお父さんとお子さんと参加していただく予定。

○委員長：
参加させていただいたが、とても有効な講演会だった。何よりも講師は、阪神淡路大震災を経験されてからNPO法人を立ち上げて、現在も東日本大震災の支援をし、女性たちのネットワークを全国的に広げている東日本女性支援ネットワークのメンバーでもある。何度も言われたのが、「今ここで地震が起きたら貴方はどうしますか」まさに女性センターの役割も含めてだいぶ厳しく緊張感有る話をされた。課長ご感想は。

○課長：
委員長が言われたとおりで、活動されている方のことばは重い。空事ではなく経験に基づいてお話している。女性の人権で言えば、少し落ち着いてくると避難所生活の中で、着替えひとつとっても色々ありますから、そういったことも含めて考えさせられた。

○副委員長：
FM西東京からの取材とあるが放送はされたのか。

○事務局：
本日取材がありまして、15日から放送する予定になっている。

3 男女平等参画推進計画各課実績評価基準の見直しについて

○委員長：
男女平等参画推進計画各課実績評価の基準の見直しについて、前回各委員より意見をいただいて合意を取ったものを基に案をお示しして、それに対してまたご意見をい

ただき、最終的な審議と決議は本日するという事になっていました。

○事務局：

プリント2枚目の原案Dについて、「また空欄のもの」となっている箇所を「または空欄のもの」に訂正していただきたい。

○委員：

A案の「計画どおりに実施され」とあるが、計画とは何を指しているのか、内容が合致しそれが施行されているか。「課題が明らかである」とあるが、課題とは次年度に対しての課題なので評価として対象外である。したがって、委員は執行の内容を評価しなくてはならない。

○委員長：

当初評価の見直しの文案が出された、委員からも書き直しについてはおおむね賛成いただいていると思うが。

○委員：

賛成していない。

○委員：

施策が着実に実施されという文案を出しているのでは。

○委員長：

「全面的に見直されていることには同意見です。」とお書きくださった。ただ、事業の取り組みが建てられているが、色々ご意見をお書きくださっているが、この計画というのは「具体的な事業又は取組計画」の部分です。

○委員：

もっと大本の計画がある。計画どおりという言葉は紛らわしい。計画の中に又計画ということで入っているので、それであれば単に内容が施行されれば良い。それから課題については次の段階の課題であって評価の対象ではない。

○委員長：

施策が着実に実施されているという、総合的にできていけばいいのではないかとということですね。

○委員長：

委員の意見と平行して、元々の原案に対しては委員、委員、委員からは、ここをこんな風にしたら良いのではないかと、という意見をいただいている。おおむねA、Bについては問題なかったが、C、Dについてはご指摘が前からあり、Cについては委員と委員から、「または」はORになってしまうので、ANDの「また」ではないかという指摘があった。Dについては、「未実施のもの」についてはDにするということで一定程度合意はいただいているが、「または空欄のもの」も入れる。D評価ですが、「当計画

に該当しないもの」これはどういう形で文言を残し、第3次計画への提言としてどう繋げていくか大事な文言だと思う。

○副委員長：

委員はご意見があるということで、このような事業取組計画という言葉が、全体の計画と紛らわしいと意見が出ているが、この件については、その辺りの所を全て評価するというような言い方を最初に決めているので、具体的に、紛らわしいということはあるにしても、書く方も具体的な事業又は取組計画という意味合いで出していただいていると思うし、課題もそういうつもりで出していただいていると思う。私は入れた方が良いのかと思った。もし評価に課題が入らないということになると、次回から課題を入れてくれなくなるのではという心配がある。

○委員：

では、我々は評価では何をするのか。

○副委員長：

それぞれの項目について各課書いてくださっているのだから、委員会としては全て見たという意味合いで評価した方が良い。

○委員：

評価というのはPlanとDoを評価する。AndCheckとかあるがそれは次の段階の話であって、我々が行う評価とはSeeの段階を行わなくてはならない。我々委員会としてはSeeの部分だと私は認識している。Actionの話についてはそれは次の話のこと。ようするにActionというのは次の時には正にPlanのところで、それが正しい評価ができていのかどうかを次の段階で見ると、この委員会でActionの評価をする必要はない。次年度ActionがPlanになるのだから、そこで次年度委員が評価をすればよいと思う。

○副委員長：

各課がきちんと行った結果次の課題が見えてきている訳で、課題を目標として挙げているか、そんな意味合いで課題も評価した方が良い。

○委員：

計画という文字に違和感がある。計画があってDoという部分があって、Doの所について評価するはずなのが、大本の計画を言っているのかどうかなんです。各アイテムについての施策が実行されているかということではないかと思う。

○委員：

委員の役割としては、各課が取り組むべき内容について、推進すべき我々が調整や援助ということが書いてあるので、その中に評価も含まれてると解釈しているが、ここに示されている内容は、施策があってその施策の内容まで書かれている。その内容についてどんな取組をするのかまで入っている。そこまではいじれないわけですね。主な取組を各課がどのように具体的に計画していくかという計画を指している。

主な取組は、例えば冊子を配布するというのが主な取組に入っている。その冊子を配布するという主な取組を貴方の課はどのように計画したのか、そこを聞きたくて入れている。評価する側はそこからしか評価できないから、すなわち、具体的な計画ですね。

○委員長：

例えば「小冊子等の作成・配布」について、各課が、それについて貴方の課は作成しましたか、配布しましたかということ。私たちはこのように作成、配布したいというのが計画になる。壮大な計画ではなく、決められた枠の中で各課がこれに対してどんな計画をして、この施策を遂行しようとしているかということを書くという、担当課にとっての男女平等参画の計画になる。

○委員：

Aの計画が2回出てくるのが問題なら、「計画通り」を取って、例えば、「着実に執行され」としたらどうか。

○委員長：

細かい言葉にいく前に合意して置きたい事がある。A、B、C、Dについて合意を取り付けておきたい。A「事業や取組計画がそのとおり執行され、課題も明らかにされている」。B「その計画や執行状況や課題の3項目のいずれかが不十分、又は改善の必要があるもの」。Cは、提案としては「施策の内容に沿った事業や取組計画が立てられていない、または執行に推進性が見られない」。これについては意見が出ているので後ほど検討する。D「未実施と書いてあるもの、または書いていないもの」。空欄のものということです。先ほど委員から幾つかご意見を伺ったが、委員、委員、委員、副委員長から意見がきている。改めてどのような視点でご意見を出されたか、ご説明をいただき判断材料にしたい。

○委員：

Cについて、言葉の表現に拘った。執行という状態を表さない単独名詞の場合には推進性という性格を伴う表現をあまりしない。だから執行状況という状況を説明した形態動詞になった名詞になってくると、推進性という方向性を付ける言葉を付けるという表現の問題でしたので、また執行状況とした方が読む人には分かりやすいのではないかと思った。

○委員長：

先ほど言ったように、「または」にするとorになるが、並列として「また」というAnd執行状況に推進性が見られないものはCとなる。

○委員：

22年度各課実績評価に未実施というのが20個近くあり、空欄のものもかなりあった。21年度ではD評価は0だった。注釈を入れて評価基準が変わったということを書いても、グラフにした場合まずグラフに目がいく。市民はグラフに目がいって、注釈はあまり見ないという形になるのかなというのがあった。よく読むと執行に推進性が見

られないものというのは、未実施のものも含まれると思うが、しかし未実施が全てDとするとかなり増えるので、例えば、2年目以降も未実施というような文言を入れた方が良いのではないか。あまりにもDが増え過ぎるのは、注釈を入れたにしても整合性が無いのではないかと思う。

○委員：

Cというのは、予算の関係とか人員の関係とかで、どうしても執行できない場合がある。計画はないが取組状況は立てる、しかし予算が無ければ執行できない。

○副委員長：

委員が言っている2年目以降というのは、先日答申した評価プラス今回も未実施ということならば、私も2年目以降も未実施と付け加えるのは賛成だが、言葉のニュアンスで変えるのは反対である。

○委員：

担当課としてはどうか。

○事務局：

未実施は当課が一番多いと思うが、当課は事務員が2名で、80程の項目を全て施行するのは困難な状況にある。その中には予算が付かないため施行できないものもかなり含まれている。

○委員長：

重点事項なのに未実施であったり予算が取れないという書き方をしている課があれば、これは重点事項であるから是非とも予算を取って執行してください。とコメントして良いと思う。

○課長：

担当課からすると予算が取れるとか取れないとかよく言うが、これは市全体での限られた予算の中での配分になるので、我々は取れた取れないという言い方はできない。公的には取れた取れないという言い方はない。

○副委員長：

男女平等推進委員会としては、予算を付けていただきたいとコメントできる。

○課長：

それは委員会の評価としては良いと思う。

○委員長：

重点項目などはまさに施策を実行してほしい。そのための努力として予算を配分していただきたい。

○課長：

市として重点項目は重要だから、委員会として予算を配分してほしいというような表現にしていきたい。

○委員：

書き方は違うと思うが、未実施というのは二つ意味があって、できなかったことの未実施と、予算がつかないための未実施がある。ここに書かれているのは執行状況の所に未実施と書いてあるから、課が施行しなかったと判断した。本来はレクチャーをして未実施というのは、予算が付かなかったのは、課としては不可抗力ですね。取組計画の段階で未実施とすれば、不可抗力のためと判断して評価した。しかし計画は立てたが執行状況で未実施と記入してあれば、不可抗力ではなく単純に執行しなかったと解釈する。未実施を書く項目を左側（具体的な事業又は取組み計画）に書いていただくと、予算が取れないため未実施と解釈する。

○委員長：

取組計画はあくまで施策内容に沿って、現課としてはこのような取組みをするということは、予算の有無に係わらず立てるのではないか。

○委員：

次年度課題のところへ、今年度予算上未実施であったが、来年度取り組みたいと記したら良いのでは。

○委員長：

予算が付かない限り計画は立てられないということか。

○委員：

施策としては主な取組みまで示している。評価というのは各課が取組みに対してどのようにしたかを評価する。したがってこの欄で評価するのは酷ではないか。

○委員長：

様々な意見が出てきているが、本日決定しないと次回委員会までに評価が出来なくなってしまいますので、原案に戻って審議し決議をしたいと思うがいかがか。

○委員：

C評価の「または執行に」を「または執行状況に」とした方が良いのではないか。

○副委員長：

前回まではA（優）、B（良）、C（可）で、Dがその他という感じの評価を、より分かり易くA（優）、B（良）、C（可）、D（不可）にするというのが元だったので、前年と比べて差が出て仕方がないと思う。Dについては未実施でよいと思う。Dを評価に入れるのであれば、多少前回とずれても仕方がない。

○委員長：

皆さんの意見を伺いましたところ、おおむねA（優）、B（良）、C（可）、D（不

可) に沿ってよろしいということで、C、Dの文言については後ほど伺う。Aについて委員からの提言をもう一度お願いします。

○委員：

計画が二つあるというのであれば、「計画どおりに」を取ったらどうか。

○委員長：

「事業・取組計画が施策の内容に合致し、着実に執行され、」という意見です。文言について改めて伺う前に、A、B、C、Dの区分けについてこれで行くというのと、委員から同じ区分けだが四つの提言があった。原案の評価方法と委員の提案と採決を取って進めたい。

○委員長：

採決の結果、おおむね原案の分け方で進めていく。Aについて、委員より提言「計画どおりに執行され」の「計画どおりに」はいらぬ。全文言いますと、「事業・取組計画が施策の内容に合致し、着実に執行され、課題が明らかになっているもの」これでよろしいか。

○各委員：

承認

○委員長：

Bについては、「事業・取組計画や執行状況・課題のいずれかが不十分、または改善の必要があるもの」だが、いかがか。

○委員：

ここで課題というのが該当するかどうかだ。「執行状況が不十分または改善の必要があるか」課題は我々の命題にはない。

○副委員長：

課題を記入していない所もあるので、やはり執行状況から次の課題を出すところまではチェックしたいと思う。

○委員長：

三項目記入することになっているが、どこかに書き方が不十分であったり、改善の必要があった時は、B評価になる。

○副委員長：

事業を実際に見ていないので、この文章でしか判断できない。課題を書いていたかかないと、どのようなことが問題なのか解らないので、書いていただきたい。

○課長：

事務側から申し上げると、課題も解っていないようでは駄目ですよということは、

常々言われている事で、評価される側にしても執行側の担当課にしても、課題まで評価していただいた方が解りやすいと思う。

○委員長：

おおむね課題は言葉だけではなく、読み込む方も大事な内容が含まれているということで、幾つか意見が出たがいかがか。

○各委員：

承認

○委員長：

Cについては幾つか意見が出ていたが、「施策の内容に沿った事業・取組計画が立てられていない」だったが、修正部分は後半の「また、執行状況に推進性が見られないもの」ということになると思うが。

○委員：

「施策の内容に沿った事業・取組計画が立てられていない」というのと、B評価の「不十分」との違いはどうか。「立てられていない」と「不十分」と「改善の余地がある」とは、同じ意味ではないか。

○委員：

「不十分」とは、立てられているが、若干改善した方が良いということではないか。

○委員：

A、Bの二つは課題についても文章の中に出ているが、Cについては課題については出てきてないがどうなるか。

○副委員長：

Cの場合は、事業・取組み計画ができていないのだから、課題は必要ないのではないか。

○委員：

施策の内容に沿っていない計画をCと考えるのであれば、それが解るような文言にしないといけない。Bと同じ「いずれも」という形にしていくとそれが解らなくなる。

○課長：

Aに習って、「事業・取組み計画が施策の内容に合致せず」としたらどうか、またはBに習って「いずれも」という方法もある。

○委員長：

C評価は「事業・取組み計画が施策の内容に合致せず、また執行状況にも推進性がみ

られず、課題が明らかになっていないもの」でよろしいか。

○委員：

推進性が大事だということだが、毎年同じ内容でB評価にしているが、C評価にしたいという考えも有った。

○委員：

「または」にした方がよいのでは。

○委員：

「または」にするとBとの違いが解らなくなる。

○委員：

「または」だと推進性が見られないものでC評価になる。それでいいのでは。

○委員：

評価しててB評価だったが、また次年度も同じだったらC評価にするという案件が結構あった。計画はそこそこ出来ているが執行状況が毎年同じになっている。いずれかということになるとB評価になる。

○委員長：

「いずれかが不十分で改善の余地がある」はB評価ですよね。C評価は全て駄目、もしくはは的はずれだよというところを強調したい。

○委員：

「または」は必要か。「事業・取組計画が施策の内容に合致しないもの、執行状況に推進性が見られないもの、または課題が明らかになっていないもの」とすればどうか。

○委員長：

委員から新たな提案があったがいかがか。

○委員：

「執行状況に推進性が見られないもの」というのと、「執行状況が不十分または改善の必要がある」は同じ意味ではないか。

○委員：

Aの対照としてCであるならば、最初の案でよいのではないか。

○委員長：

それでは、A、Bの文章に沿った方がよいというところではよろしいか。つまり、「事業・取組計画が」で並べた方が解りやすいという意見が多かったが。

○副委員長：

Aの場合は、「計画どおり着実に執行され」と入っているのだから、Cは「執行状況に推進性が見られない」としたらどうか。

○委員長：

Aについては「着実に執行され」という言葉に対して、Cは「執行状況にも推進性が見られない」というのがAの裏側になる。さらに「課題が明らかになっているもの」がAなので、Cは「課題も明らかにならない」となるが、いかがか。

○委員：

委員が言っているのは、経年的に同水準だった場合に、BにするかCにするかこの文言だと迷ってしまうのではないか。私もそのように読んだので、Cの「執行状況に推進性が見られないもの」というのは未実施のものと解釈した。グループごとに解釈が違くと、評価が変わってくるのではっきりした方がよい。

○副委員長：

計画どおりに進んでいれば推進性がある。昨年から全く変わらなければ推進性はないということではないか。

○委員：

グループごとに評価が違うのは良くないので、はっきりと統一した方がよいのでは。

○副委員長：

評価に対して、現委員は2年、3年前の評価をする必要があるのか。私はこの中で推進性があるかないか判断している。

○委員：

推進性が見られないのは、施策に沿った計画が立てられてないという解釈でいいのであればよい。

○委員：

「推進性」を取って未執行としたらどうか。執行されていたら不十分または改善の余地がある。

○委員長：

Bは「事業が不十分または改善の必要がある」。Cについては「計画が施策の内容と合致しないと共に執行状況・課題が不十分のもの」としたらどうか。

○委員：

以前は、十分と改善の余地と不十分であったが、今回はBに不十分が入った。改善の余地と不十分は意味合いがかなり違う。

○委員長：

それでは委員からの提言で、Aは「十分」、Bは「改善の余地」、Cは「不十分」でDについては「未実施のものまたは空欄のもの」。つまり、Bの「不十分」をCに持つてくるという評価は可能か。

○委員：

Dは男女平等を回答する項目かどうかという判断があったのではないか。そのような構想はなかったか。

○委員：

評価よりもそのことが本筋だと考えた。施策そのものに欠点があるのではないか。それをDという評価のニュアンスを残したのではないか。

○委員長：

前回の委員会で副委員長が言ったように、当計画に該当しないものは、コメントの中で第3次計画の時には「この項目について当事業には該当しないと思うのでご検討いただきたい」と、一文残して引き継いでいただきたい。それでは、再度確認する。A「事業・取組計画が施策の内容に合致し着実に執行され、課題が明らかになっているもの」、B「事業・取組計画や、執行状況・課題のいずれかに改善の余地があるもの」、C「事業・取組計画や執行状況・課題の何れも不十分なもの」、D「未実施のものまたは空欄のもの」ということで皆さんに流しますので、意見については枠の中でお願いいたします。

4 「平成22年度男女平等参画推進計画各課実績評価」について

○委員長：

平成22年度男女平等参画推進計画各課実績評価について事務局と調整した結果、領域毎に調整したうえで8月12日（金曜日）までに事務局へ送ってください。事務局は整理した結果8月31日（水曜日）までに各委員へメールで送ります。9月14日（水曜日）委員会で現物を参考に皆さんで調整する。10月には企画運営委員会との意見交換会があります。日程調整については事務局に任せるが、事務局から一言お願いします。

○事務局：

先日企画運営委員会においてお話した。「べいていーず」という若いお母さんの団体の委員が、日中でないと参加できない。やはり若い方の意見も伺いたいので、平日の委員会開催時間の午後4時頃からで設定していただけたらと考えています。

5 その他

○委員長：

次回委員会は、平成23年9月14日田無庁舎1階102会議室で午後6時30分から。
以上、閉会とする。